

➤ 13日 水曜

ヘブル



7:23 また、レビの子らの場合は、死ということがあるために、務めにいつまでもとどまることができず、大勢の者が祭司となっていますが、

7:24 イエスは永遠に存在されるので、変わることはない祭司職を持っておられます。

7:25 したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことがおできになります。

7:26 このような方、敬虔で、悪も汚れもなく、罪人から離され、また天よりも高く上げられた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。

7:27 イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。

7:28 律法は、弱さを持つ人間たちを大祭司に立てますが、律法の後から来た誓いのみことばは、永遠に完全な者とされた御子を立てるのです。

人間の祭司では永遠の救いを実現できないという理由がここに明らかにされています。「レビの子らのはあいには、死ということがあるため、務めにいつまでもとどまることができ」ないということと、「自分の罪のために」毎日いけにえをささげなければならなかったからです。

すなわち、全人類のために自らを身代わりとして、その罪のさばきを負うことができるのは、神以外にはないということです。そのために御子は神の栄光を捨てて、弱い人間となり、しかも貧しい生涯を送られて多くの悲しみと、耐え難い苦しみを負われま

した。

このイエス様への感謝を忘れることのないようにしましょう。またイエス様の謙遜から学び、十字架によって新しくされることで、自分自身謙遜な者となりましょう。謙遜にされることは恥でも失敗でもありません。光栄なことなのだということを、イエス様の謙遜から学びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

